イギリス・アメリカ相互交流に関する ディスコース研究

研究代表者　高　橋　正　平

1．分担者

金　山　亮　太
高　橋　康　浩
平　野　幸　彦

2．協力者・所属

岡　村　仁　一（教育学部）

3．2007年度の研究活動の概要

2006年度はアメリカ創生期の植民地時代におけるイギリス人とアメリカの交流に研究の焦点を当てたが，2007年度は19世紀から20世紀にかけてのイギリス人とアメリカとの関係を中心にして研究を行った。高橋（正）がオスカー・ワイルドのアメリカ旅行，金山がアメリカにおけるサボイ・オペラ，平野がエドガー・アラン・ポーとチャールズ・ディケンズとの関係についてそれぞれ研究を行った。以上は『人文科学研究』に集録されている。他の分担者高橋康浩，協力者岡村仁一もアメリカとイギリスの関係を独自の観点から研究を行い，その成果を論文，学会で発表した。

4．2007年度の研究成果の概要

高橋（正）は，19世紀後半のイギリス審美主義を代表するオスカー・ワイルドのアメリカ旅行について研究を行い，ワイルドの４編の講演からワイルドの実像に迫った。ワイルドのアメリカでの主要な講演題目は，「イギリスの文芸復興」「住宅装飾」「芸術と職人」であった。ワイルドはこれらの講演で自らの

審美主義の実体をアメリカ人に説明し，またアメリカ人にもっと美を意識した人生を送るようにと繰り返し述べた。ワイルドはこれら３編の講演以外に「1848年のアイルランド詩人たち」と題する講演も行っている。この講演ではイギリスによって自治を奪われたアイルランドがその自治回復のために戦っている様を歌っている様々な詩人をワイルドは共感・共鳴をこめてサンフランシスコ在住のアイルランド人に語っている。高橋は，この講演にワイルドのアイルランド人としての真の姿が見られることを強調し，ワイルドのアメリカ講演旅行は，ワイルドがアイルランド人としてのアイデンティティを再確認した旅であったことを論じている。

金山の論文「サヴォイ・オペラをアメリカで観る」は19世紀後半のイギリスで生まれたサヴォイ・オペラは今日なお英米圏の国々で根強い人気があるが，イギリスの隣国アイルランドではこの軽歌劇を楽しむ習慣がないように見えることに注目し，一見すると古き良き時代を懐かしむためのメディアに見えるサヴォイ・オペラが，その成立時期の時代背景を濃厚に残しているが故に，観る側あるいはそれを演じる側にとって複雑な感情を引き起こすものであることを論じた。特にアメリカにおいてサヴォイ・オペラを知っていることが教養人としてのたしなみの一部となっていることの意味についても考察した。

平野の論文「ポーとディケンズの「狂気もの」について」は，狂人ないし狂気をテーマに取り上げたディケンズとポーの作品のうち，おもに前者の「狂人の手記」と後者の「告げ口心臓」を比較･分析することにより，影響関係にあったこれら二人の英米作家は，類似の素材を扱いながらも，それぞれの関心は正反対の方向 ― 一方は社会風刺，もう一方は人間心理の探究 ― に向かっていたことを示した。

５．2007年度の研究成果の一覧

高　橋　正　平

１．著書「イギリスとアメリカ植民 ― 「黄金」と「キリスト教」」（新潟大学 Booklet　共著），2008年３月pp.１-75.

2．論文

⑴「ジョン・ティロットソンの火薬陰謀事件記念説教 ―「ルカ伝９章55-56節」とカトリック教批判」2007年５月『新潟大学言語文化研究』第12号，pp. 37-54.

⑵「ヴァージニア植民とは何だったのか ― 公式文書から見るヴァージニア植民」2007年10月『人文科学研究』第123輯，pp. １-37.

⑶「who の先行詞は me か thou か－ジョン・ダンの“A Valediciton: Forbidding Mourning”の二つの解釈について」2007年12月『新潟大学英文学会誌』第三十号，pp.19-39.

⑷「William Watson のジェズイット批判－*...Jesuits do farre passe Machiavell...*」『欧米の言語・社会・文化』2008年３月, pp. 23-42.

⑸「オスカー・ワイルドとアメリカ」2008年５月発行予定『人文科学研究』第122輯

3．公開講座

⑴「英米の小説と詩 ― イギリスロマン派詩人ウィリアム・ワーズワス」（2007年６月６日，13日，20日，新潟大学新潟駅南キャンパス「CLICC」）

⑵「イギリスロマン派詩人ウィリアム・ワーズワスの詩の鑑賞とその意味を探る」（2007年６月27日，三条市中央公民館）

金　山　亮　太

1．著書

⑴『ディケンズ鑑賞大事典』共著，2007年５月，南雲堂，39-55頁

⑵『ギッシングを通して見る後期ヴィクトリア朝の社会と文化』共著，2007年11月，渓水社，167-183頁

2．論文

「サヴォイ・オペラをアメリカで観る」2008年５月発行予定『人文科学研究』第122輯

3．翻訳

⑴ ハンフリー・ハウス著『ディケンズの世界』単訳，2007年５月，『新潟

大学言語文化研究』12号，179-190頁

4．学会発表

⑴「血と汗と涙 ― ギャスケル夫人かく戦えり」2007年９月30日，日本ギャスケル協会第19回大会，於：中央大学駿河台記念館　シンポジウム「ギャスケルと演劇的要素」司会兼パネリスト

⑵「教養（リテラシー）としてのサヴォイ・オペラ」2007年11月17日，日本ヴィクトリア朝文化研究学会第７回大会，於：日本大学文理学部

5．公開講座

⑴「チャールズ・ディケンズについて」三条市民公開講座　2007年６月13日

⑵「英米の小説と詩－チャールズ・ディケンズ」新潟大学新潟駅南キャンパス「CLICC」）2007年６月27日，７月４日

高　橋　康　浩

1．著書「イギリスとアメリカ植民 ―「黄金」と「キリスト教」」（新潟大学Booklet），2008年３月pp.１-75.

2．論文

国際基督教大学 COE プロジェクト「平和問題と平和主義」の中の一章執筆

3．口頭発表

“Contemporary Pacifism in the United States”2007年度韓国政治学会（於：韓国ソウル）学会誌132-143頁集録。

4．公開講座

「イラク戦争と現代アメリカが直面する諸問題」三条市民公開講座　2007年７月４日

平　野　幸　彦

1．論文

「ポーとディケンズの「狂気もの」について」2008年５月発行予定『人文

科学研究』第122輯

２．公開講座

⑴「英米の小説と詩 ― エドガー・アラン・ポー」新潟大学新潟駅南キャンパス「CLLIC」） 2007年７月11日，18日

⑵「エドガー・アラン・ポーの詩「大鴉」の創作の舞台裏など」 2007年６月20日，三条市中央公民館

岡　村　仁　一

１．論文

「富者への施し物 ― Melvilleの“Jimmy Rose”について」『新潟大学言語文化研究』，2007年５月　第12号，29-36頁

２．公開講座

「英米の小説と詩 ― メルヴィルとアンダーソン」，新潟大学新潟駅南キャンパス「CLLIC」）2007年７月25日，８月１日